●本誌は日本に於ける婦人運動の先驅也

世界婦人

誇るべきもの

安部磯雄

誰にも多少自負心といふものがあるが、我には何の誇るべき所があるかと考へて見たならば、我等は隨分下らぬことに自慢して居ることに氣が付くのである。婦人には虚榮心が盛であるとは人々の言ふ所であるが、これには多少の眞理があるかも知れない。男子にも多少の虚榮心はあるに相違ないけれども、容貌や衣服などを誇ることは慥に婦人の方に多い樣に思ふ。街上婦人が行きかふ時には一方の婦人が乾度ふり返りて他の婦人の服裝をながむる。眺めらるゝ婦人はながむる婦人よりも必ず盛裝して居るのだから、ながむる婦人は多少羨んで居るのかも知れん。何にせよふり返りて他人の服裝を見るなどは教育ある婦人のなさぬ所であるが、斯ることの男子よりも婦人に多きは事實である。婦人は殆んど服裝を以て人の價値を定むるもの丶如く思ふて居るらしい。故に婦人の誇りとする所、生命とする所は容貌が第一で、衣服が第二であるかの如く思はるゝさても淺薄なる虚榮心なるかな。

婦人が其夫を誇るには多少の理由があると言はねばならぬ、其夫の大學者たり大政治家たり大軍人たることを誇るのは決して虚榮心ではない、若し自由交際の結果夫婦の契を結んだのであらば、偉人の愛を惹きたる婦人彼自身も亦非凡の人なりと言はねばならぬ、余はルーズベルト夫人やチエンバレン夫人が心中大に其夫を誇つて居るであらうと推察する。彼等の其自負心に酔ふ間は決して衣服や自らの容貌に思ひ及ぼすの暇はなからうと思ふ。然れども其夫は眞に婦人の誇とすべき所のものであらうか。夫の偉大なることは必ずしも妻の非凡なることを證明するものではない。婦人は往々其父の位地と資産の力に依りて不相應なる男子に嫁することがあるではないか。今日の如く政略結婚の行はるゝ時代に於ては無教育の婦人が大學者の妻となり、品性劣等なる婦人が温厚なる君子に嫁することもないではない。されば婦人が其夫を誇るは未だ以て正當なりと言ふことは出來ぬ。

然らば婦人が眞に誇り得べきものは何であるか。余は此處に婦人の生命たり、慰藉たり、修飾たり、榮譽たるものを指摘しよう。其は彼が少からぬ苦痛を以て生み、少からぬ苦心を以て養育したる所の子である。子女は凡ての點に於て兩親の寫眞であるから、彼等が心身共に健全なることは即ち兩親が其品性に於て、其身體に於て比較的完全なるの證據ではないか。善良なる子女を得んと思はゞ兩親は先づ身體を大切にし、慾情を節し、品性を高尚にせねばならぬ。子女が學校に於て學問に秀で、教師や朋友に愛慕せらるゝだけの美性を備へ、且つ壯健なる身體と活潑なる元氣に充ち居らば、これに優りたる父母の喜があらうか。若し世に誇るべきものありとすれば、余は善良なる子女なりと答へたい。婦人の生活は多く隱れて居るから、彼が有する立派なる品性は容易に世間に現はるゝことはない。故に多數の婦人は容貌や衣服を以て自分を世に紹介するのであるかも知れない、成程これは自分を人に知らしむる捷徑であるかも知れぬが、決して永久に持續する所の方法ではない。婦人の高尚なる品性と其非凡なる才能とは其子女がこれを世に紹介して呉れるのであつて、子女が發達すると共に母の眞價は益々世に發揮せらるゝのである。ヲシントンや、グラツドストーンの如き偉人を見る時には我等は彼等の中に現はれたる母の眞價を認めざるを得ない。遺傳の法則は誠に嚴重であつて、瓜の蔓に茄子の生ずることを許さない、容貌の事に苦心し、衣服の事に憂身を窶して居る婦人が何して善良なる子女を生むことが出來ようか、婦人の眞價が一々其子女の價値に依りて定めらるゝことを思はゞ婦人は今一層精神修養の事に留意せねばならぬではないか。

寸鐵

聽雨生

▲激流あり、滔々として一瀉千里の勢を以て奔下せむとす。盤石あり、是を沮して逝かざらしめむとすれば如何。遂に横流氾濫の慘害を來さむのみ。是れ必然の結果なり。ナチユラルロウ也。時代の思潮は澎湃天に沖し、民衆の自覺や鬱勃として渾圓球上に瀰漫す。姦雄あり。要路に立ち頑として天賦の民權を蹂躙せむとすれば如何。上下混沌、遂に革命の焔を見ずんば已まず。嗚呼是歷史の證明也。事實也、ツルース也。能く水の性を知る者にして、始めて能く水を治むることを得。水の性を知らざる者、強ひて是を治めむとすれば、却て水に死せむのみ。能く自由民權を重んずる者、爲政者の位置に在つて政の美擧り、暴虐非道の者要路に立つて、人心を繋持する能はず。道義も亦廢頽し、遂に刺客の手に倒れし者比比皆然り。嗚呼、禹の再び生れざる天下の凶なり。刺客の現れざる國家の祥事なり。顧ふ昔履に朱鞘を横へ、七寸の鞋八洲を蹂躙して鐵腕夜鳴るの慨ありし當年殺伐の天地を。

栃木縣下谷中村民の救濟金を募る

同胞よ！
わが同胞は飢へんとす

谷中村民が數年の久しきに渉り彼の横暴と戰ひ年々水害に惱まさるゝ慘状は讀者諸君の既に知らるゝ處なり。抑も谷中村問題は一時の出來事に非ざるが故に一言にして茲に盡し難し、其眞相を詳かにしなば悲慘と暴逆と無量の感慨を禁じ得ざるものあるなり。縣廳は永く堤防の修繕を怠り水をして恣まゝに村民の生活を苦しましめ田畑を荒らし村價を下落せしめ彼等の無學なるに乘じ水害を名として其土地を收用せんと謀る、爾來陰謀と罪惡とを重ぬること多年遂に土地收用法を以て强制的に之を買收せんとするに至れり、中に質朴硬骨の民百餘人今猶殘り死を以て之と爭ふ、彼等は實に立派なる人道の戰士なり。

過日有志の寄附に依り村民は漸く夏作を穫る目的にて假堤防の修築に着手せり、村民擧りて夜を日に續ぐの急工事未だ全く其工を竣へざるに去四月十二日午前九時卅分增水は堤防の一部を破り凄まじき勢にて遂に全村を浸し見渡す限り渺々一面の水これ實に水に非ずして村民が悲哀の涙なり彼等が唯一の生命と賴みし夏作は悉く水底に葬られ了りぬ、此の危急に際し人民保護の警察は全く何等の助力をも與へず只至誠なる田中正造翁の鼓舞獎勵と僅かに有志の援助とによりて村民漸く自ら衛るのみ、嗚呼人道の戰士將に今飢へん吾等は此の際此の氣の毒なる同胞の爲めに吾食を分たんとす、寧ろ之れ人として當然の事なる可きを信ず、諸子よ此のよる瀨なき窮民をこれ如何、吾等は實にこの飢へたる兄弟姉妹の悲哀に泣く、野獸すら猶其友を愛するを知る本社茲に深く感ずる處あり之れを廣く有志の切なる友情に訴ふ、願くは諸子よ此の瀕死の同胞の爲めに多少の義捐を惜しむ勿れ。

御送金は本社宛本社は責任を負ふて取次の任に當らん

五月十六日

世界婦人社

●本誌を讀まざるものは眞の婦人に非ず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

結婚式とは何ぞや

堺利彦

政府の命ずる結婚の形式は、只だ本人が二人の證人と同道して戸籍役場に出頭して、口頭にて結婚の旨を届出づるか。但しは自身出頭せずして本人及び證人の連署せる届書を差出すかの二つである。而して其届の内容に就ては、本人が甚だしく幼年ならざる事、本人同志が甚だしき近親ならざる事、本人が或年齢以下なる場合には父母若しくは後見人の同意を要する事等の制限があるばかり。

民法に曰く「婚姻は之を戸籍吏に届出づるに因りて其効力を生ず」と。届出でなければ、幾ら其實があつてもコチヤ知らぬと云ふのである。教會で結婚式を擧げようが、親が許して添はせうが、届出のない限りは政府は一切之を承認せぬのである。

次に基督教會などの命ずる結婚式は、云はゞ牧師が證人になつて、神の前に約束を結ぶといふのであらう。此の方では又、政府に對する届出や親の同意などには左して重きを置かぬ樣だが、只だ神樣と牧師とに對して内證事をすれば、之を罪惡と稱して一切承認せぬのである。

次に世俗の習慣が要求する婚禮の式であるが、それには親兄弟親戚が列席して仲人が盃事をさせると云ふ事と、友人知人、隣人等も招いて披露をすると云ふ事と、二段に分れて居る樣である。例へば、神宮奉齋會などで前段の盃事を行ひ、それが終つて或料理店に後段の宴會を開くと云ふ次第である。然し多くの場合、殊に中以下の家に於ては此の二段をゴツチヤにして同時に埒を明けてしまふ。又場合に依つたらば、全く後段を略して了ひ、或は稀に前段を略して了ふ樣に見受けられる。

此方では又、政府への届出や教會の牧師さんなど丸で眼中に置かず。専ら親の承認及び世間(即ち交際間)の承認といふ事が主眼になつて居る。

して見ると、結婚の式とは、男女の關係に對する何者かの承認の式である。即ち政府の承認、神と教會との承認、父母親戚の承認、及び友人知人の承認、その孰れかを求むるの手段、及び之を得たる事を公示するの手續が結婚の式である。然るに茲に面白きは、此承認を與ふる前三者が、頗る相排斥して居る事である。而して第四者即ち友人知人、廣く云へば一般社會は、前三者の中、孰れかの承認を得たる者ならば先づ之を可なりとして承認するのである。して見ると結婚の承認には、決して何處にも唯一絶對の權威は無いのである。

そこで政府の保護を受けたいと思ふ者は是非とも政府に届出をするが善い。今日の女子の如きは、男子の横暴に抵抗せんが爲に、直ちに届出を爲すの必要もある。然し政府の力などに依つて夫婦の縁を縛りつけて貰ふに及ばぬと思ふ者は、届出なんぞ仕なくても善い筈である。又神を信ぜざる者は固より神の承認を求める筈はない。教會に屬せざる者は教會の承認を求める筈はない。よし神は信ずるとも今日の教會に屬することを屑しとせぬ者は甚だ多い。さる人々は我が良心に宿る神の承認を求むればそれで善いので、敢て教會と牧師との承認を求むる必要は無い筈である。又父母親戚と雖も、其保護を受け其助力を得ようと思はざる限り、必ずしも其承認を求めねばならぬ事はない。誰しも父母親戚と仲よく暮したいは山々なれど、それも時と場合とに依つては、姑く其情を忍んで一時交りを斷つの例は、世間に多々ある事である。

然るに人は如何にしても全く孤立して生活する事は出來ぬ者である。政府と喧嘩する事も出來る、教會を脱する事も出來る、父母親戚と別れる事も出來る、然し全く社會と隔離する事は出來ぬ、少くとも、數人若しくは十數人の友人、知人、隣人なくては生活の出來る者ではない。そこで男女關係に就ても、前三者の承認は兎もあれ、第四者即ち友人知人(廣く云へば一般社會)の承認だけは是非とも之を求むる必要がある。

さすれば結婚の式も亦た、前に記せる習慣の後段の分(即ち世間への披露)が眞に重を爲すのである。仲人が立會つて盃事をすると云ふのも、畢竟互に相知らざる男女が初めて茲に紹介せられて、大事の約束をするからの事で、若し今日漸く少しづゝ行はるゝ如く、交際ある男女が次第に親密になりて、遂に夫婦の契を爲す場合には、仲人だの盃事だのといふは、只だ滑稽の感を生ずるばかりである。凡そ世の中の習慣が滑稽に見えて來るのは、其の習慣が既に實際の事情に合せぬからで、之を六かしく云へば、社會の道德思想が經濟事情の變遷に伴はぬ事を示す者である。故に斯くの如き道德思想は一日も早く之を變改して、新しき事情に適合する新しき習慣を作る事を勉めねばならぬ筈である。

そこで結婚の式に、就ても此の滑稽に見ゆる仲人だの、盃事だのといふ者を、一日も早く棄て丶了つて、政府、教會、父母親戚の承認などは何うでも善い事として只だ本人同志の自由意志に從つて結婚して、只だ之を友人、知人、隣人に披露するといふ事にしたいものだ。但し其の披露の式を、料理屋の盛宴にするか、自宅の小宴にするか、それとも心ばかりの配物にするか、或はズツトさばけて葉書一枚の通知狀にするかは、其人々の境遇と趣味とに依る事である。

海內時事

○勞働者運動の趨勢

ストライキが決して職工の利益にあらずと喋々する所謂世の識者多き今の世に何ぞ計らん坑夫の同盟運動愈々出で、愈愈盛なるは一奇と申す他無之候。吾人は今の世の傾向が那邊に向ひつゝあるかは改めて申上げず候。有史未曾有と迄に注目されし足尾の大騷動未だ吾人の耳新しき處なるに又もや四月二十九日幌內炭山にて、千七百名の坑夫が大活動を演じ屢々以て世の資本家、事業家に深酷なる警醒を與へ候。如何に同盟罷工の不利益なりと訓誡する人々はありとも如何せん今日の職工には是れ以外何等資本家に對抗すべき武器を有し居らず、猶以て一朝鬱憤の激發したる時には前後の思慮なく此の擧に出づる事に候。今回幌內坑夫が要求したる個條は「支柱夫及び採炭夫の賃金を二割增加する事」其の他の賃銀を平均三割にする事、及び皆勤賞與を廢して更に良好なる制度を設くる事、坑夫長屋を改善する事、大略以上の個條に候例に依りて騷動加入者の檢擧を行はれ嫌疑者五十九名の內二十一名放還、三十八名の中十九名は起訴せられ候。充分の武器を有せざる勞働者の騷動の結末は何れも千篇一律に候

○幌內騷動の反響

足尾の大活動の際も西に東に同じ種類の運動反響したる如く今回も稍々前回よりは小なれど夕張炭山に本月三日坑夫の示威運動行はれ又は歌志內炭山にても同樣の事起らんとして資本家の心膽を寒からしめ候。是れ實に我が現今の勞働者が如何に衣食の爲めに苦慮せるかを表示するものに候。單に日本のみと云はず近事海外の勞働者の運動が增々大規模に向ひつゝあるを見ては吾人は現代の最大急務は勞働問題の解決に他ならずと存じ候

○大日本婦人教育會

明治二十一年に創立せられし日本婦人教育會は今年にて廿年の星霜を經る事となり去る十一月盛なる創立紀念式を擧行せられし由に候

流石は當代の上流婦人間の事業のこととて資本に事欠かぬ仕事なれば今日迄の功績は何等怪しむに足らぬ事に候。吾人は斯の種の會が廣く日本一般の婦人間に行はれむ事を希望致し候、さりながら「教育」てふ冠字の爲めに古往今來千篇一律の定規に拘束せられ有名無實のものと成るは好ましからず候

谷中村の近狀

(一)最後の戰は近づけり

栃木縣は村民の全然反對なるをも意とせず强々土地收用審查會を開き來五月卅一日を限りとして村民を立退かしめんと決す之れ谷中村民に取つては最後の戰なり、其結果果して如何、吾等は全く豫知することを得ず

(二)堤防の築工

都人士が瓢を携へて櫻狩りに出掛くる頃谷中村にては丁度雪解け水の押し寄する心配多き時なり、堤防の切れ口は數年來あいた儘政府はかまつて吳れず、村は水の浸すに任す、夏作は多少植付けたれど水が來ては殘れず、茲に於て過般有志の寄附あり、之れを以て村民は最後の戰が近づけるにも拘らず平氣にて自ら夏作をとる爲めの堤を築き始めたり、全村の民老幼男女を問はず皆よく心を協せ力を協せて働らきければ工事日每に進む、暫しも[illegible]に雪解け水の襲來に會す

(三)堤防危ふし

五月に入りてより形勢いよ〱危くなれり堤一尺を築けば水又一尺を增す[illegible]村民は夜を徹して工事を急ぐ、シト〱と[illegible]提灯の下に立働らくその[illegible]、十一日は水と堤と高さ殆んど等しくなるに至りぬ、[illegible]風起り波立つよと折角運びし土は無慘にも洗ひ去らる、[illegible]木の枝を投げ込む、此の日は急所を[illegible]入りて暮れ[illegible]何時しか明けりぬ

(四)堤防遂に破る。

十二日天氣よし、一同元氣を得て持ちこたへなば增水も止みなんと云ふに少しく出づる[illegible]、九時[illegible]、其處に集り[illegible]心と[illegible]て各時は[illegible]る[illegible]は[illegible]の[illegible]て[illegible]一[illegible]に[illegible]たり[illegible]

(五)村民飢に迫る

呼嗚[illegible]息まで[illegible]つて[illegible]彼等を[illegible]愈々大なる[illegible]會ど賴みし麥は[illegible]水底深く埋れぬもて[illegible]を如何せん[illegible]わりあ[illegible]實に此苦境に陷れる窮民を如何せん(柴田生)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

男女對經濟の問題
(玉郎の假名を去りて神川姉に答ふ)

遠藤生

(一) 婦人自由の敵

婦人自由の敵なるものは果して男子なりや。然り男子は婦人當面の敵なり。然れども斯は只或男子のみ、而して唯當面の敵たるのみ、換言すれば、男子は婦人自由の敵の爲め、偶然其の武器となり、兵力となりて婦人を過するに過ぎず、故に婦人自由の敵者は他にありて、彼れ男子にある無し。別途に出で、考ふれば、人間は男女なり、男子か女子か、其何れだもあらざる人間はある無し。換言すれば、人間生活は男女の生活なり、而して其の一方が所謂自由なしとせん、時には、他の方が其の自由なして、問題に、關係無きを得べからず。人間生活が不平等なりと云ひ、而して其れが兩性間のものなりとせば、兩性相互の交渉、即ち爭闘を以て問題の解決を見得べきが如しと雖も實は然らず。本來男子も女子も自然界に於ける相對的生存者にして、何れも或條件のもとに生活するものなれば、互に其敵たるを得ずと、然り兩性相互が相互に對し絶對にして無條件なる不平等生起の原因たるを得ざるにあらずや。既に然らば婦人自由の敵として、何ぞ男子を指摘し得んや。男子は單に婦人の敵たるが如く見ゆるのみ、而して彼れ男子自身は自由を有するが如く見ゆるのみ。見よ富豪てふ男子を去り、專制權を恣にする男子を去らしむれば、其處に不平等ある事なく、其處に不自由の風もそよがず。否富豪の存在を許し、專制權の存立を是認する精神制度をして一掃せば、其處は兩性の平等界なり。

(二) 根本は經濟の問題にあり

或人曰はん、道徳を高めよ然らば經濟問題を云爲せずして婦人は解放せられんと、然れども其謂ふ道徳を高むるの意義如何。經濟的不平等を是認するが如きは是れ道徳の精神に反くものにあらずして何ぞや。故に問題は、婦人解放に要する道徳の内容を究め、其の道徳を高むるに歸す。經濟的不平等の狀態を顧みず、其原因の解決を遂げずして、徒らに道徳を高めよと唱ふるが如きは、自家撞着の道の[illegible]たり。吾人は揚言す、經濟的自由は根本なりと。婦人が男子に服從せざるを得ざるは經濟的自由なきが故のみ、只だ其れのみ。若し彼れに其の自由あらば即一切足る。否所謂現今の婦人問題は決し悉されむ。男子が女子を隷服するは、彼れに其の權能あるが故ならずや。

付て言ふるに訓けり、曰く奴隷廢す可からず、只だ彼等に自由を與へよと。如斯を當今婦人問題に當て嵌め、且婦人自身をして言はしめつゝあるを聞くべし。曰く、經濟國封建制度打破すべからず、只我等に自由を與へよ然り我等は男子を打つべし。吾人は採らず。

(三) 婦人解放の意義

故に婦人の解放は、社會經濟問題の解決と同意義なりとせよ。かの是非共結婚主義は元より非なり。故に良妻賢母主義を採つて全般に對ふべからず。然り婦人を遇するには、女子としての人間教育を附録とし、人間として女子教育を本主とす可きなり。

然れども婦人解放の意義をして、ワイニンゲルの言へるが如く、兩性の特徴差異を抹殺するの結果を生ずるものとせば吾人は未だ同意するを得ず。強ひて半陰半陽の性格を主眼とする婦人解決は病的にあらずや。若し夫れ然らば婦人に對して男らしかれと強ふるは非なり。人らしかれと言ふは可し。而し所謂男らしかれとの文字を生める裡面には、男子のみ獨り人間らしかりしものありしが故なり。實に婦人は婦人らしければ敢て缺くる處あるなし。

吾人は既に主張せり、經濟問題の解決は、等しく婦人の解放なりと、而して經濟問題の解決とは、人間の上に人間を置かず。人間の生活に要する一切の物に、偏人若しくは制度より生ずる私有若しくは獨占を打破する事に在り。天の賜ふ有らゆる物をして、賜はる萬人平等に供給するに有り。

太平洋の水は我が有にも彼の有にもあらず、國王も政府も之れを獨占私有するの權なし、其の如く土地も資本も誰か之れを獨占し私有して落かるべき。然り、故に今日の如き非理想的なる社會組織を打破せざれば婦人は決して解放せらるべからず。而して婦人が解放せられざる裏面には幾多の解決せられざる男子も所有り且經濟上の自由は兩性萬衆の自由なるを記憶せざる可らず、茲に於てか男女眞の戀愛に醉ふを得む。然かも政權を得るは既に自由の獲得なり、然かも之れを獲得したる曉には、經濟的平等自由境に入らんが爲め活動せざるべからず。即ち萬人政權無必要の境に進むの手段として、政權を得んとするにあるを記憶せよ。要は經濟的萬人の自由にあり。婦人解放の問題は求職にあらず、殖財にあらず、社會經濟の問題解決にあるなり。

海外時事

○セージ夫人貧窮と罪惡とに戰ふべく百萬弗を寄附す

資本家の一寡婦アメリカ合衆國民の生活狀態の改善を企つ——大都市に起りつゝある社會問題の研究——立法院は此計畫を實行せんがため一千萬弗の基本金を之に加へんとす。(紐育三月十二日發電)

ルセル、セージ婦人は辯護士ウキリアム、デ、ファレストを以て、アルバニイの上院にて紹介せられたる此結社に對する議案たるセージ基本金に關する正確なる報告を今日得たり。

余は此基本金の寄附として一千萬弗を投ずるものにして、其の目的は合衆國に於ける社會及生活狀態の改善に資せんがためなり。此目的を達する方法は考究、印刷物、教育、慈善的又は慈悲的機關事業の設立と維持とにして、又既に設立せられたる、此種のすべての機關及び事業の扶助をも合むべきものなり。

無智と貧困と罪惡と、滿てる此不都合なる社會狀態の依つて以て來りし原因を調査研究し、如何にしてこの狀態を救助し且改善し、効を擧ぐべきか、而て此目的を達するには、如何なる專用手段を運らすべきかの根本問題もこの範圍内にあり、而て此決論を實行すべき新代理店を是非共設立し、且現に存在して効果あり、滿足なる事業をなせる代理店の資本を一樣に補助するこれも必要にして欠く可らざるものなり。

目的は廣大なり、——其の目的廣大なればとて、今正に爲されつゝあるもの或は他の個人によりて極めて有効に爲されんとするもの、若は個の資本なれども他の團體にてなさんとするものには、少しも妨げざるのみならず、最大至難の問題をとらへ來りて、一致協力、其の問題の解決を助くべきものなり、而して一度設けられたる後、何等の助けなき團體を助くる機關を以て、運動するを以てよしとす。又、彼等を助くる機關を以て他の運動を始むべし。此基金は永久的にして其の運動は連續せらるべきものなれば、すべての收入は慈善的目的のために用ゐらるべし。然れども團體自ら收入を得べき社會の改善に向つて研究をなすべきなり。

紐育本部——本部は紐育市に在り。紐育は社會問題の最も痛切に感ぜられ且混亂せる所にして、實に市の廣大にして、年々百萬近き移民の流れこむ港たるに起因せずんばあらず。實に此本部の設立は範圍と活動とに於て、實に國民的のものと謂はざる可らず。

余は社會問題に適し、熱心と興味とを有するのみならず、經驗と定見とを有し、吾等の問題を解決し得る紳士淑女の中より、左の數氏を保管人として選び得たりこと、セージ夫人の指名したるものにて即ち左の如し。

ロバート、ダブリユー、デフオレスト(一千九百年來紐育市に於ける借家仲立業を成せる紐育州借家委員長)

クレベランド、ドッッチ(紐育のレッドクロス、リサイテーの行政委員會の委員長)

ダニエル、シーギルマン(ジヨンス、ホプキンス大學の總長並カーネギー會院の次長)

ジヨン、エム、ジエレン　ヘレンゴールド孃(此の兩人は彼の溫厚なる慈善業と、紐育の州立養育院の院長たるセージ夫人及びウキリアム、プライス夫人の生涯の友として著名なり。

ルイサ、エル、シヤイラー孃(紐育州立基督教徒補助會の事務員)

御申譯に

前號に(?)大の婦人に就てゝふ論説を掲載して聊か老婆心を申上げんとなせしも安部氏の譯るべきものと、稍や趣きを同じふ致し候ゆへ今回は見合せ申候讀者諸君の御了承あらんことを　ひで

來る五月廿八日正午より
栃木縣谷中村買收事件大演說會
於神田錦輝館

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

幾重の奴隷
（憐れむべき女教師生活）

深尾韶

（一）

『先生さん、まことに濟みませんで御座んす。つい忙がしいに紛けて、娘の頭髪も結んでやる隙が御座んせんもんで、先生さんにや、えらくお世話になりやんす。貧乏隙なしと申してのう先生さん、ハヽハヽ、今日も亦先生さんに髪を結つてお貰ひ申したつて、娘、嬉しがつて戻つて來やんした。ほんとに三人や五人ぢや無し、先生つて役あ、どんなにお骨が折れるだかと、今も婆さんと云つたですに。お先生さん、もうお家へお歸りでやすかいハア未だお清書直しをやつてからで。お忙がしいで御座んせうのう。まこと申譯の御座んせんが、一つ物を賴まれて下さりやんすまいか。我良人喜太郎さんの弟の嫁の妹が、私の姉の配偶の從弟ん所へ嫁くことになりやしたで、ちよつくら喜びを云つてやりたいと思ふですが、どうか一本手紙を書いてお呉んなさい。まことにハア。祝言の日でやすかえ。お祭りでも濟んだら爲るでやせうよ、名でやんすか。そうでやすの、わりや、おくわに田吾作とか申しやんした。そうで御座んす。兩方へ御面倒でも。ハア〳〵明日までに書いといてお呉んなさる。そいぢや宜しくお賴もうしやんす。』

『ヤア誰かと思や、喜太郎さん所のおゆきさんか。今日は何か學校に用でもあつて來なさつたか。』

『なあに、ちよつくら先生さんに手紙を書いて貰はうと思つて。』

『あアそうかい。まあ待つて居なさい、己も今一緒に其處まで行きますべえ。』

先生さん、誠に濟みましねえが、私等主人が一寸お賴もうしたい事があるで、學校のお歸りがけに我家へ寄つてお貰ひ申したいと申しましたい。なアに大した用でもありますめえ。此頃些と地所を賣つたで、多分その賣渡の證文でも書いてお貰ひ申したいでやせう。ハイ左樣なら、どうか宜しくお賴もうしやす。おゆきさん戻りやすべえ。』

（二）

親切だと言はれる女先生は、陰で泣いて居るだらう。無智な田舍の親達は、其子の世話になるだけでは足りぬと思つてか、先生だつて代書人や雇ひ書記ではあるまいに、やれ手紙・やれ證文と、引きも切らぬ御注文。先生、陰ぢや泣いても表面では『宜うございますとも、お易い御用』と無理に作る苦しい笑顔。謂はゆる『親切な先生』とは『何でもやる奴隷』と云ふ事なのである。まかり間違つて此女教員『唯今お清書を直して居ますし、色々事務も御座いますから、お氣の毒ですけれど、他へ行つて書いて貰つて下さい』とやつて見たが最後、生意氣な女教員、何にも出來ぬ女教師、物を知らぬ女品行よからぬ人、誰々と怪しいとか何々の事があるとか、あらぬ事まで村人の口の端に上つて、是れこそ轉、免の憂き運命に立至たらうも知れぬ。辛きは證文の書方から屆書の書式まで心得て居らねばならぬ田舍の教員、奴隷又奴隷、幾重にも御機嫌を伺はねばならぬ田舍の女教員。

（三）

『あ、お歸りか。大分晩かつたぢや無いか、何して居て。ウム、兒童の成蹟品を檢て居た？、だつて此樣に晩くなる譯はあるまい。ナニ？それに大澤の家へ寄つたつて？何だつて其樣所へ！。馬鹿馬鹿しい。證文を書いてくれつて言ふからだと。何も其樣事は斷つちまへば善いぢや無いか。小學教員は金持のお抱へ書記ぢやあるまいし。一體モウ何時だと思ふ日が暮れて一時間も經つ。お前だつて大澤の人物を知らない譯でも無いだらう、あの有名な好色漢を。あんな者に近づいて何の利益があるんだ。併しお前にや何か特別の必要でもあるのかい。お前が歸らないんで、何時までも晩飯は食ふ事が出來ず、おッ母さんは大分小言を仰しやる、實に弱つちまつた。これからは善い加減に歸つて來て貰ひたいもんだなア。』

亭主足下に對しては、女教師先生また一個の奴隷である。結婚せずに居たら、切めて是だけは免がれる事が出來たらうに！

（四）

時計を見れば早や七時半、ぐず〳〵して居ては出勤時間に遲れると、そこ〳〵に臺所奴隷の用を片付け、いざとばかり立つ途端、姑の君の時ならぬお召し。

『モウお出掛かね。わたし今日は少し頭痛がして、肩が凝つて困るんだがね、親の爲に學校をお休みの事は出來ますまいね。十分でも一時間でも遲るなんて事も矢張りいけませんねえ。勤めと言ふものは、孝行なんてつまらないものよりか、餘つ程大切なんでせうから。お前は勤めを大切にするわねえ。わたしなんぞの樣な死損ひは、マア家で一人で鉢卷でもして居ませうよ。なアに善いから早く行つてお出でなさいよ。何をお前は眼をお拭きなのだえ。それぢや少しお肩でも打つてから參りませうつて。まあお前は孝行者だね、けれど、それぢやアだの、でものツて、迷惑ならマアお世話になりますまいよ。そんな積りぢや無いつて。ほいこれは御免なさい。それぢや少しばかり御世話になりませうか。』

（五）

『先生、ほんとに申譯がございません。今朝母が氣分が勝れないと申しまして、私はどうしても暇を出して呉れませんものですから、つい此樣に遲くなつて了ひました。』と汗をふき〳〵、恐る〳〵。校長は微笑を含んで、

『なあに、それ位ゐの事は介意ふもんですか。今やつと半時間ほど授業に掛つたばかりです。それよりか實はね。』

少し女先生の方へ寄る。

『あなたの增俸を申請しやうと思ふんですが、村長が承知しさうも無いので躊躇して居ます。併し近日是非通過させますから、樂しんで待つて、下さい。』

お禮を言つて教室へ行かうとすると、

『マアそう急かんでも善いでせう。こんな折は又とない――わと半時間だけお遊びなさいな。私も一緒に遊びますから。ちよつと賴まれて下さい、つい茲を綻びさせたから。』

脫いだ羽織の袖付を持つて、すつと女先生の方へ寄る。

女先生のそれを受取る途端、荒鷲のやうな手は、女先生の胸のあたりに飛んで白魚の樣な其軟かき手は、シカとばかり握られて了つた。

女先生は跳退いたか、驚きの聲を擧げたか、無禮を叱するの聲を勵ましたか、否、否、否、女先生は唯だ校長の顏を見上げた。而も其眼は斜めに、朧ろ夜の柳の、風に煙るが如く、濃艷なる香を籠めて。

（六）

女先生は歸りに、唐物を賣つてる店に立寄つて、それから歩みを村長の私宅に運んだ。

憐れなる奴隷よ。御身は奴隷又奴隷と幾重を重ねて滿足するのか。（了）

戀愛觀

奧田聽雨

世に失戀の爲に死ぬ男もあれば女もある。如此死を批難攻擊するならば、戀愛は命を懸けて迄もすべき物で無いとの議論になる。是れ一種の戀愛觀である。之に反して失戀の爲の死を讚美するならば是れ純然たる戀死奬勵論である（しばらく失戀の爲の死を戀死と云ふ）。是れ又一種の戀愛觀である。

前者に在りては、戀愛は或場合に於て神聖ならずとの決論に到達する。何となれば、戀愛が總ての場合に於て神聖なりとすれば、是が爲に犧牲となりたる死も亦神聖でなくてはならぬ、隨つて批難攻擊さるべき物で無いからである。此の戀愛觀が主張され實現さるゝ日には、どうも男女の間が水臭い樣な氣もするし、又吾人の本性に問うて物足らぬ樣な、不滿足な感が起る。

後者に在りては、戀愛は何所迄も神聖なりとの斷案を得る。此の戀愛觀が主張され、實現さるゝと、人間が失戀の爲に死ぬ者が漸次多くなりはすまいかの恐がある。何となれば、一人の男が多數の女に戀はれる事もあらうし、一人の女が多數の男に戀はれる事もあらう。而も一夫多妻、一妻多夫は實際に於て行はる可き物でないからである。

如上兩觀に於て、吾人は其何れに於ても理性の滿足を得ないとすれば、戀愛問題は到底明斷直截の解案を得られた物でない。論理以外に超絕した物とせなくてはなるまい。「色は思案の外となる」俚諺中の俗醜、然も萬綠草中紅一點とも謂つべきの警句、是れ實に、該問題を解決して餘蘊なき千古不滅の鐵案で無からうか。

余や實に寡聞淺才、門を窺うて堂に入らざる者。而も此の大を執へて敢て戀愛問題を云爲せむとす。烏滸の罪素より甘んずる所、庶幾はくは大方の批正を垂れ給はむ事を。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

單衣本重の裁縫

軍地浦子

單衣本重の裁方は上着下着とも普通本裁單衣と同樣なり。袖口は共がよろし若し色變りの時は若きは時色老たるは水色又は鼠とす。裏衿も好みに由り異なれども大抵若きは上着に時色を付れば下着緋、老たる人は上衣白、下着水色と定まり居れり。

縫方順序

袖の縫方

一、上着の袖口を懸け、直ちに口明を止め袖口の掛る處まで縫置く。
二、大に袖口の切を其裁目のまゝ表に細く綴付
三、下着の袖、表袖同樣の處まで縫置く。
四、下着は袖口の端を折袖に絎付く。
五、上着の裏と下着の表とを合せ、袖口より下を四つ縫にす。
六、袖巾の印をつけ袖下二三寸別々に縫餘りを四縫にし袖形を拵へ引返して躾を掛く
七、振を袷の八ッ同樣に縫ひ返して、躾す。

身頃の縫方

一、下着の裾の巾三分三つ折にし之を裏の方に絎け付け。
二、表の方へ縫目を出して背縫す。
三、脇縫左右
四、上着身頃脊縫及び脇縫す。
五、裾口巾三分二ッ折絎にす。
六、上着下着との間、脊と脇縫の縫目綴り。
七、入ッ口上着下着共袷同樣縫合せ、
八、袖付つけの處四枚を極めてわさく糸留表袖の方に返す裏は身頃の方に返し、
九、衿巾を揃へ衽の付處を綴付け
十、褄下を褄立より五寸位上着下着共絎け置、上着衽を上着に當、下着衽を下着の方に當、兩衽を以て身頃を挾み四縫になす。
十一、褄下の一寸程上より裾口の五寸上り處まで上着下着の褄下を一時に絎け劍先を上下共よく揃へ躾をかけ之を綴付く。
十二、上着の表衿と裏衿へ左右の衿先きを縫ひ置く。
十三、上着の方は上着の表衿と裏衿と下着の表衿と合せ、三枚を當て下着の方下着の裏衿を一枚のみ當て之を以て身頃を挾み脊縫より左右に付け下す。
十四、衿先は一分中を縫、其縫目は裏の方へ返す衿の絎込は表の方にくるみて上着と衿を絎付く。
十五、褄先の處は巾三寸竪褄の方三寸五分に斜に標を付け、白絹糸二本を以て表に二針細く出し裏に一針一寸位の針目にして上着下着の間にて綴り付裾口上下共躾をかけ熨斗を懸け出來上るなり。

理想の結婚

臼井愛菊子

眞の戀愛と云ふものは極めて神聖な處に於て成り立つものであります。是れ則ち愛を基礎として形造られたる家庭にして始めて休安慰藉を得らるゝものでありまして人類の尊き性情と活力とを養ひ得る事が出來ますと信じて居ります。

所謂人が萬物の靈長たる特性を天より賦與せられたる者とせば蓋し愛を基礎とせざる獸性的結合して人間男女の結婚とは言ふことが出來ない、のみならず眞の愛情を尊ばずして結合せられた結婚は到底健全なる家庭を作ることが覺束ない事と思ふのであります。

开は固より家庭は國家の分子であつて其分子にして健全ならざれば爭でか建全なる國家の發達を望むも得がたいのであります、果して然らば即ち結婚は個人と個人との適當な和合であつて二人が遺憾なく人生の幸福を完成して行く事に存じて居るのであります。

試みに見よ男女共に個性を啓發して立派な人間となるのが眞に結婚の目的であつて之れに達する爲めには總て犠牲にすると云ふ決心がなくてはなりますまい。而して理想的結婚はなし得ないのであるとせば其間何等の故障あるのでありますまいか。是れ從來我國の如きは忌むべき慣例があります开は第一に父母が先づ娘を他家に縁組せしむるに際し先方の夫になるべきものと自分の娘の理想が能く釣合や否やを見る事が肝要でありませう、唯自分の家と先方の家との財產上の釣合を對照して先づこれなら上々として娘を嫁せしむるのは之れ非常な心得違ひであります。勿論家と家との關係を見るのも宜しいでありませう、併し之れ丈けでは未だ安心なる縁組として目的は達して居ないのであります。

況んや先方が金持であるから娘を嫁にやつて之れに依て自分の利益を得やうとか或は先方が名譽ある家であるから之れに依つて自分も名譽を得やうとして娘をやる人が世間では多く見る事實でありますす之等は槪して申せば自分親達の目的の爲めに娘を犠牲にするのでありませう、其樣な虛儀の結婚は斷じて排斥せなくてはなりません。のみならず女子の前途甚だ不幸を見る事世上往々實例あるのでありますこれも絕體的父母の干渉を排除して我儘な結婚を望むと云ふのでなく或程度までは監督上より干渉するならば差支ありますまい、單に前陳の如き卑劣の野心より起り來りし縁組は斷じて望まないのであります。然るに世上往々親達さいよければ致方なく娘も行くと云ふ事を聞ますれば實に氣の毒な譯であるのです。

斯くの如きは父母兄姉に威壓せられて唯だ儀式的の致方ないから的に愛もなき男と結婚するは必竟夫婦間一致和合の出來ないのであつて(たまに仲よきものあるが)遂に一生涯涙のかわかぬ不幸な境遇にある人とならねばなりません、之れ要するに結婚は婦人に取りては人生の運命の定まる本でありますから成るべく男女間充分交際をして能く理想的人物を選擇して理想的結婚し理想的の家庭を作ることは妾が希望の一斑であります。

獨占家

ジョセフヰン、コンガー女史
金子喜一氏夫人

(一)

おゝ神の最初の法則を忘れたる汝よ、
おゝ汝の同胞の要求を忘れたる汝よ、
汝、その飽くなき貪心を滿さんとして
彼の心に壓迫の重荷を積み重ぬめり。
而して彼より絞り竭せる「男らしき力」
の滴りを以て、汝の溢れ出づる財庫を
彌が上に滿たしむ。
見よ、汝は日光を浴びたる海に其漁網
を投ずる間に、
彼は岩礁多き海岸にさまよへるを。

(二)

おゝ多年「運命」に逆つて戰し汝よ、
おゝ權者の助力によりて攀登せし汝よ
汝の負へる愛の負債を忘れたるか、
汝を引き上げしその手を忘れたるか、
汝よ、小兒が徒に麵包の爲に泣き叫ぶ
時の母の感懷を忘れたるか、
汝よ、夭死せる彼等の愛人の面を
絕望をもて眺めやる情剛き人々の心中
を想はざるか。

(三)

おゝもし汝、神の最初の法則を忘れた
らん人には、
おゝもし汝が同胞の要求を忘れたらん
には、
もし彼を勞働の車輪に奴隸として縛り
たらんには、
そは汝の飽くなき貪心に喜悅を與へ得
ん、
もし汝、彼の眼、彼の心、彼の腦をし
て鈍らしめ、
彼の生命を碎破して、そを「運命」よと
呼ばん時
汝優にその貪心を滿たし得ず。
されど記憶せよ、
汝の播きし種子は必ず汝に歸り、
而して汝は、彼の「陰鬱にして幽閉せ
られたる憎惡」を自ら刈らざるべから
ざるを。

戀

同夫人

戀は出發點であり、また目的である。
戀は部分であり、また完全なる總てゞ
ある。
戀は中心であり、また圓き部分である。
而して戀の如く必要缺くべからざるも
のは、
世界に一物もあることなし。

寸柬

世界婦人御惠與ありがたく、縫手木綿針莚に置き拜見仕り、新しき天と地を見たる如く、生命の木の果拾うたる心地致し候、是れ全く喜の福音と存じまゐらせ候(中略)此際同胞諸姉と、王の王なる神の下に潔き生涯と權利の要求を叫ばん事を。ア、孤獨なる妾は誰にか手寄らむ。只あり本雜誌を生命水として飮まむ。

越後寺泊町 竹村端榮女

小生は生存競爭に失敗致し幸か不幸か現今自作農の位置に居るものに候家庭の不和戀愛の失敗等にて、非常な煩悶の味も知り居るものに候。農業は小生の天職なりと自覺し、唯々神の使命に從ひ居り申候云々。

長野縣下水内郡 野上冷星

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

小説 梅の花（下）

谷尾水紫

静雄は悶えた、悶え盡した、夫れはお時を妻にしようとてゞはない、彼れを忘れようとてゞある。が到底駄目である。…夫れで其悶えの結果が、自己と云ふ者の將來生きる理由に樂しみと云ふものが失せた事を知つた、生きてる甲斐と云ふものを認めなかつた、即ち悲觀である、恐るべき悲觀に陷ゐつた。尤もな話である、夫れは静雄でさへなければ容易である、牽行きて彼れを抱きさへすれば足る。けれども静雄には出來ない、静雄は元と此希望を憎むの靈を持つて居る、われわれ静雄は死ぬ斗りに悶えた。

お時も又そうであらふ、近頃墓參に出るのも、偶々である、いつも色の白いのが、近頃一層白く成つて青味さへ加つた、そして頬の肉が氣の勢か少しく減つた樣である、

。。。。。

静雄は彼の如く悲觀に陷ゐつた、最早や死ぬより外はないと迄。

したが静雄は深く思うた、彼れお時と同棲が出來ぬために何等の樂しみもなく、此世を去らねばならぬ理由が分らぬと。お時と同棲するのは即ち肉性の慾ではないか、自己も彼れを愛する彼れも此上なう自分を愛して呉れる。すれば自己と云うもの丶望みは立つて居る筈であるに、何故に儚なく悲しいのか、……と暫く、……愕然静雄は再び神を見た、……彼れが戀は即ち神の能力である、靈の作用である、讃美すべきである、貴むべきである、お時を愛するのは神聖である、更に悲觀すべきではない、お時を抱かんとするは之れ自己の靈……神樣の御手でない事を知つた、……お時を抱かむとするは罪と云う魔である、慾と云ふ鬼である事を知つた、……罪は自己でなく魔である、自己を殺すべき仇敵であるのである。

かく思うて静雄は目を開いた、此時神よ己に静雄に宿つたのである。噫静雄よ汝の戀は永劫なるぞ、乱れず穢れず、消えず滅せざるぞ、それお時は永久に汝の妻也、限りなき世、きわまりなき歳と共に生きん、とは神の囁きであつた、

。。。。。

静雄は此樣な文をお時に送つた、

「吾愛する時さん！、我れは君を限りなく愛する也、我等の戀は、消えざる也、我等が戀は極わまりなし、我れは限りなく君を愛するが故に、君の家を訪はざる也、左れど時さんよ、恨む勿れ悲しむなかれ、そはやがて全能の神は我れ等の心を受け給ふべければ也」

と、お時の店は近來非常に繁昌し出した夫れはお時が感心に一人で働いて、浮いた話もなく、毎日能く精出した爲に、終に村の者の同情を得たのであらう。お時は何をするとて精出すのであろふか、裏若い綠りの黑髮い長い〳〵生涯に——。

（完）

孤堂日錄

孤堂生

◎四月十九日　新荒井村に晴耕庵主人を訪ふて談笑數時。晴耕雨讀、さては晴耕園の名ある所以であらう。午去餘りに貴族的な養鷄で何等の趣味もない。草廬清福(清貧)の煙を上げつ丶、右手に革命の鞭を握り、左手に鷄を愛撫してこそ晴耕雨讀でもあり、理想の養鷄でもないか。而し人各々嗜好相同じからず、亦仕方がない。

歸途獨り大森海岸を逍遙したが、鍋の蓋のカゲを見ては貧乏世帶が目に散ら付き鼻緒の切れた下駄を見ては坐ろ薄幸の美人を想ふ。あゝ競爭の波は遠慮なく世の敗者をこゝに打ち上げたのである。眞紅なる殘照が打ち狂ふ夕潮を照らせば其處に悲哀の影が動いて居る。

◎四月廿三日　今夜今までの處に移轉した掃除をして床に就たのは彼之れ四時々分寢ながらにして青葉の風に搖れるのが見える。殘月が淡き光を投げてしばし竹籔のほとりに躊躇して居る狀は眞紅なる香の匂に醉ふた乙女が多恨多情を其衣に包んで果敢なき戀路を辿るそれかのやう。玻璃一枚の外には自然の美一幅の下にあり、僕亦不幸い人にあらず。高が貝殼大の住家と笑ひ玉ふ勿れ。僅か一分に足らぬ牡蠣と申す動物もある世の中、昔は水風呂を己が生涯の住居としたるさへあるになどて不足はあるべしや。

◎二十五日　登校には大久保から行かねばならぬ。小徑を辿ると落花誰も踏まぬらしい。赤染衛門があらば「昔所、昔しいわね」と洒落るとこだらうが茲には木石漢唯だ一人、朝の雀が啼て居やがる。戸塚原に出る。一面の麥が風にうねつて宛然青海原のやう。向ふの樹梢には旭が昇つて居る。偶と目に入るのは原の中央こんもりとした老杉の繁げみの中にぼろの天幕三個五個、之れなむ乞食の野營である。青い煙が細く天幕の間に昇つて居る。兒を負ふた十二三の女の子が「旦奈可愛や……」と歌ふのが瞭かに聞える。サワ〳〵風が吹いて草の露を拂ひ落すと涼しい心地がする。しばし疎林を縫ふて又忽ち野。慈愛館と云ふ戀しいやうな山師のやうな洋館の垣根に付き當る。其處には優しい山吹が生垣に咲き添ふて美しい。此の垣根を一まわりした頃には乾度電車が來る。殺風景な奴だ。此處が大久保停車場である。乘客七八人、降客二三人。滅法閑散な停車場だが之れから大久保のつゝちで雅客東京より御下向成さるのであらう。電車の内には軍人が居る。髭がなければさぞ無邪氣でよからうなど思つて獨りで微笑して見る。學生は無骨だ。女學生は多少賢こげに見えるが夫れとて當てになつたものでもない。金緣やコスメチックは悉く氣に喰はぬ。電車が野を横ぎる。八重櫻が咲いて居る遠く氣笛の聲が聞える。

◎二十六日　地主の御爺さんが留守番をして呉たので矢張之も地主さんとこの居外の風呂に弟と語りつゝ湯浴みした此の時月邊の雲の變化をよく觀察したが語屋の變化杯よりは奇麗で且高尙なものだ。

◎二十七日　自分は戸塚原の只ある檜の木の下に寢轉んで行雲の奇を稱して居た白い雲の流れて來るのに陽炎の薄く彩つたのは五色の雲であらう。樹梢にかゝつた、美はしい。人の顏が出る。下女の顏のやうだ。ヒステリー性の妻君の顏のやうだ。幽邃無人の仙郷が現はれる。白牡丹が出る。橋が架かる、恐れ恐いが二重橋の樣だ。九重の雲愈々深いと思ふ途端、野に響く喇叭の音、天にも響き渡つたのか、四散霧消、空青くして天地晴れ渡つた。

◎三十日　夕方鳥を入れて上つて來て見ると鍋はヒチ〳〵焦げて居る。一つ弟に憤つてやらうと隣室を覗けば机の側端に仇氣ない地藏のやうな眠り姿、オイ、もう御飯だよ—とそと撫でゝ。

◎五月三日　郷里よりの上京者を案内したが其の一人突然電車の電燈の消えしを見て「そーら見さつしやい風が餘んまり強いで到頭消えてしまつた。」

◎五月五日　食さへ與へると無靈の動物鷄でさへも僕が愛育の若菜をツイバまぬので二葉の柔い掌を展ばし始めた。

◎降校の途中——と云ふ人の養鷄所に立ち寄つたが雛が百有餘、可愛そうに遊んで居た。一羽が寢轉んで居た「まあ可愛ちやありませんか丸で御萩のやうですね」と其處の妻君が指ざされた。

◎五月七日　雨が沾々降れども雛買ひに出かけた。蜜柑箱に數十の雛を入れて其の夕暮れに歸つて來た。雛曰はく「小父さん、兵隊ごつこするから日の丸の旗買つて下さい」何？御前達ちもそんな惡戯を覺えるのかい。無駄な御錢だ。

◎五月九日　友が來て僕に銀貨を渡す序に何氣なしに鷄の前に出したら不思議そうに少し首を傾けて眺めて居る。さも冷笑の體だ。「御前には一粒の米の方が遙か增しだらう」と立ち上ればケーコッコッと竹林の雌の方へ走り去つた。

◎五月十日　武藏野にハラ〳〵雨が降りしと思へば既に晴れて木々草々の葉末の露が光つて居る。丁度涼しい瞼のやうだと思ふと偶と又思ひ浮んだ「黃金の光は鬼の目玉のやうだ。」

同胞よ

臼井愛菊

一日のパンに運命をも
犧牲に捧げて同胞が
集働ふ地獄の坑内で
苦しみ叫ぶ聲を聞け。

嗚呼同胞が犧牲の
汗膏に醉つ資本家が
金殿玉樓いとなんで
非道の快樂に耽るなり。

四海友なる同胞よ
人權自由を得るために
我等が一度奮起して
一致協力團結し。

正義の道を進みなば
横暴無道の資本家も
忽ち心を改めて
仁義に富める人となる。

あな美しき人道の
正義の赤旗により集ひ
最後の勝利を握るまで
進めや進め諸共に

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

小説 漂浪者　　有秋生

夕暮方から雨が降て來た。

鐵三は稅關貨物置場の煉瓦塀に凭れたまゝ、海の方を眺めて居る、彼は身體を起す元氣さへ、今は無い。

雨は一時一時と繁しくなるが、鐵三は今宵一夜を枕す可き宿もないのであらうか、夢見る樣に、未だ海の方を眺て居る、暗は次第に翼を擴げて海の面を壓しかゝる、鴎は漸次に力を盡げて、岸に、波止場に白い羽を羽ばたゝく、鐵三は未だ海の方を見て居る。

彼は去年の春に靜岡の方から、此の橫濱に流れて來て、今では哀れな波止場の荷上げ人足である。

孤獨の鐵三にも一人の兄はあつた。兄はあつたが、非義な戰爭は過る奉天の役に、「忠義者」として彼を虐殺して了つた。美くしき名の下に縛付けられて殺された兄も嘸ぞ無念であつたらうが、後に殘された妻子や兄弟の惱みは盡す可き時がなかつたのである。

鐵三は嫂と妹を殘して故郷を出た、不景氣な地方の市よりも、天子樣の居られる大都會の東京は儲け口も相當にある筈であらうと思つたのか、彼に取つて不幸にも、大不覺であつた。

極樂でも見る氣で東京へ出て來た鐵三は、地獄の亡者の樣になつて忽た橫濱に流れて行つた。處が橫濱には彼に同情する一人の人間も居なかつた、多くは「金」の跡を追ふて行く輩許りであつた。

あゝ、彼の海の闇い黑い雲の湧て居る邊には嫂も居やう、妹も居るであらうと思つた時、剛毅不屈の鐵三も、感慨の涙が潸々と溢れたのである。彼は生て、再び其の嫂にも、妹にも遇ふことは出來ないと覺悟して居る。否、自分は此傷の爲に死んで了ふので、今最う死につゝあるのであると迄思つて居る。

夕暗は、海をも陸をも閉して了つた、波止場の邊りも、稅關の邊りも、一樣に魔の黛で塗られた。鐵三は夫を地獄の暗の樣に思つて居る、そして自分は最う直き死ぬかの樣に思つて居る。

偶と足音がする、鐵三は耳を傾てた、其は次第に近いて來る。

巡査の靴の音の樣にも思はれぬので、彼は稍胸を安んじて、再び眼を閉じた、而して再び死を思つた。

足音は次第に近いて來る、輕い跣足の足音である、暫らくすると其がぴたと止まつた。彼方でも夕暗の中に、朦げながら鐵三の姿を認たのであらう。

「あゝ、お前さんかえ、吃驚したよ」

鐵三の顧り返つた途端に、女は恁う言つた。（足音は女であつた。）

「何うしたの、雨の中に眠て、病氣になるぢやないか」

言いながら女は、傷を包んだ襤褸布に目を止めた。

「まあ何うしたの其傷は。え、熊の畜生に毆られた？、酷いことをする奴だえ、嘸痛かつたらうねえ」

眉を顰めて憐れむ樣に泌々と言つて、

濕らしちや不可だらう、さ、此方へお出よ、好い處へ連れてつて、眠かして進るから、

鐵三は漸と答へた、

「乃公、歩けんのぢや」

「何、歩けないつて、ぢや妾の肩へお摑まりよ連てつて逃げるからー。え、妾？妾も歸ると主婦に苛められるのは決つてるからね、歸らない心底なのよ。

ね、お前さん、恁な稼業をしてるんだもの、好た男の一人位無くちや、賴かないぢや無いか。其を咄々言れるんだもの、本統に嫌になつちまふわ」

彼女は此の海岸の仲仕人足を相手の淫賣婦である。

「さ、お摑まりよ、好いかえ。大丈夫だよ、こゝ處を、――、肩の處だよ好いかえ、濟ないことも何んにもありや仕ないはさ、好いの――。」

鐵三を肩に助けて、女は何處へか連て行く。（未完）

清國青年と語る　　記者

清國民、殊に漢人種族、殊に其青年が革命の精神に燃えつゝあるを、今更取り立てゝ謂ふは愚ならず。然れども記者が過般石川君入獄の前夜、同君と共に同君の下宿にて邂逅せし、清國二青年と語り、彼等が如何に我が青年に優りて雄大なる氣字を有せるを、其の熱烈にして深刻なる革命の意氣に接して、今猶彼等と語りつゝあるの感あり。謂ふ所敢て耳新らしきものにあらざれども、略二時間に涉れる、親しき交談のうちより左に拔粹して彼等が心情の偏を掲げたり但拔粹したるのみならず○○○の箇所さへありて解る其の要を得るに難きが如し今日の社會讀者乞ふ之を諒せよ

君は滿洲政府を愛する乎

滿洲政府不我們同種

君は何を學ばんとして日本に來れるか

僕之志願唯在於仁政、唯在於社會民主主義。社會民主主義者則仁政也。

滿州政府に對する君の意見を示教せよ

滿洲政府非我族類。必驅逐之换其政府。不令他立足於中國。

君之日本に來れる志望に我們切に同情を表す。而して其の意見を聞き得たる實に幸甚なり。社會主義は歐洲先哲が既に一百年以前に在りて之を唱へたる處にして我等今之を實行せんと力めつゝあり

君今欲實行社會民主主義君亦一英雄也

日本に對する見識如何

今之日本政府者○○無異與滿洲政府故○○○○○○○○○而建立社會主義之政府雖然吾儕之力未足殪彼政府

然らば之を如何にすべき乎、政府には多數の軍隊あり豈抗す可けんや

雖然十年之後軍隊及全國民乃可來於吾儕。然則一舉而殪横暴政府亦容易耳

君は社會主義之政府を仁政府なりと云ひ、而して仁政を望むと言ふ然れども其の政の仁なると否とに不拘、凡て政權なるものは人道を汚がすにあらずや

今日之所爭非權。惟種族之競爭。豈獨權乎。不過權亦在其內耳

然れども政府は古來皆人民を虐ぐるものに非ざる乎

二十世紀之天非如是主義其何可乎即非再制之時代也

無政府主義は百年之後と雖も未だ世に行はれざる可し、然りと雖ども老子は二千年前に於て既に之を唱道せり。而して世には斯の道の爲めに粉骨碎身する者あり

英雄之志古今無異。豈老子。其今人於今日而行此志。豈非英雄之志。所見者同僕得君此言亦增一番興趣

美はしき言辭を弄りて自から慚愧なからんや。我儕同志二君を得て欣喜に堪へず

知己之友亦甚罕見。自到貴國言語不通。所以不能得悉貴國之情況。今日以筆談之閒得此不凡之語亦僕之幸也

明夜は僕此家を去つて獄中の人たらんとす亦能く二君を見るを得ず、胸中悲しみ無からんや

古來謀大事成大業者亦多見屈於人彼雖用此虐待他日亦可以着法報之。此正所以磨錬英雄之志。惟僕不能與君暢談實僕等之不幸也。

兩君歸國せば大に爲す處あらん、而かも暴虐政府の迫害や甚ならざる可し

中國迄今之志士死於虐政府滿洲者不知凡幾、革命主起。談革命者皆多所殺

儕善者よ空の景色を別つことを知りて時の休徵を別ち能はざる乎

（馬太傳）

●寄福田女史　　楓滝逸民

（一）

劫初このかた、消えたる、
太平洋の夕潮に、
清き姿を泛ばせて、
大空わたる孤月輪。
二十年來、滿腹の、
經綸、世界を蔽へども、
浮世の旅に行き暮れて、
宿なき君を何と見る。
嗟、狂颷は競に捌し、
雄雄は高く飛び翔ける、
世をうらぶれの我れもまた、
胸にをもひのなくてやは。

（二）

火中の蟋蟀、王侯の、
夢に醉かれ惱らい、
巷に迷ふ人の子よ。
など我が君に來らざる。
時の始を把れる神、
正義と共に君に在り。
王の權威を有てる神、
慈愛と共に君に在り。
神は正義の鞭をもて、
生死の暗の戶を開き。
神は慈愛の劍をもて、
罪あるものゝ縛を解く。

（三）

觀念して四千載、
基督逝いて二千年、
信の王國荒れぬれど、
花なほ開き、水流る。
誰れか天地の意氣を知る。
巧僞の惡人蔓りて、
口に文明、手に干戈、
嗟、恐ろしき罪の子ら。
君よ、成壞の律もて、
法火を投げて洞然と、
火いて劫初の國とせよ。
いざ罪の子ら、覺悟せよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎定價　△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢

カメリヤ洗粉

時代の要求により生れたるカメリヤ洗粉は色白くきめを細かに艶を增し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

定價　大瓶廿五錢　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋二錢

本舗　ライオン齒磨發賣元　東京神田柳原河岸　小林富次郎

花島煉乳場製　金鷲ミルク　伊豆三島　名譽ある

東京市日本橋區大傳馬町　發賣元　逸見山陽堂

商店改築大擴張

カルタ齒磨は口中にある諸種の細菌を殺します
カルタ齒磨は齒牙のゆるみを緊縮するの効がある
カルタ齒磨は口內の悪臭食物滓渣の腐敗を防ぐ

絹手巾種々　造花類種々　西洋小間物

東京市京橋區尾張町二丁目八番地　電話新橋二七六七番

光明堂

カルタ齒磨はアルカリ性なれば口內醱酵を防ぐ
カルタ齒磨は最も微細の粉なれば齒を磨耗せず
カルタ齒磨は常用すれば口腔齒牙の諸病を防ぐ

新築落成移轉

小兒科　內科　外科　病料　診療

府下淀橋町角筈（水道前）

淀橋醫院

竹下繁太郎

成瀬正弘君編著

西洋古今 名訓逸話集

定價四十錢　郵六

本書は西洋古今の名訓逸話を集錄せる者にて趣味と教訓を兼備へ廣く家庭の讀料に供せ〆事を期す世道に宗教の書多しと雖も讀むこと二三頁にして急ち倦を來し篤信の人病床の人若くは獄裡の人に非ざれば忍耐して通讀せざるが如きもの亦尠からず本書は茲に鑑むる所ありて讀者をして讀み終らしめんことを期し其材料の撰擇に充分の注意を加へたり是本書の特色なり

發兌　東京市京橋區尾張町二丁目　警醒社書店

國木田獨步著

濤聲

定價金八拾錢　郵稅金八錢

東京神田　彩雲閣　振替口座一四〇一五

各國語聖書、基督教書類
其他一切新刊書類確實販賣

東京神田區猿樂町二十五番地
振替貯金口座六三三〇番

中庸堂書店

●齒科治療　自午前八時至午後六時●

神田區須田町廿六番地

齒科醫　吉瀨才一郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

白柳秀湖著　小川芋錢畫　竹久夢二畫

近刊　晚春の離愁

定價未定　洋裝美本

著者の急進的民主主義に就ては讀者既に之を知れり。本書は著者が靑春を葬るの紀念にして、又情意の世界に於ける初陣也。著者は其平素抱持せる主義を以て、自然と人生とを伴せんとするものに非ず、されど其實際生活は著者の力となりて、自ら言辭に擺播せり、著者の憂愁は世紀の憂愁也、著者の悲哀は時代の悲哀也、本書は著者の生命其もの也。

發行所　東京々橋區尾張町七　隆文舘

福田英子女史著　菊版美本肖像入

妾の半生涯

定價卅五錢、郵稅六錢
第四版既に賣切、更に
第五版を發行致し候

大井憲太郎等と共に有名なる大阪事件に與せし女傑景山英子は即ち本書の著者也彼女の幼少が鄉里の才媛として如何に聲高かりしか、彼女如何にして大阪國事犯に與せしか、在獄三年の生涯は如何なりしか、如何にして情人と離れ、如何にして良人を得たるか、更に妻女として赤貧なる、慈母として悲哀なる、寡婦として多恨なる彼女の生活は如何なりしか、本書は、實に其の曲折波瀾、錯節纏綿せる一個の大悲劇を描ける也。

發行所　東京市本鄉區本鄉千駄木林町　日高有倫堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY